

交錯する血、文化



サクソフォン 田村真寛
Saxophone Masahiro TAMURA

田村真寛サクソフォン・リサイタル

多様な文化と日本のアイデンティティーを体現する渾身のプログラム!

2020年12月18日 開演19:30 開場18:30

横浜市青葉区民文化センター フィリアホール

入場料 一般2,000円 学生1,000円(当日各500円増) ※全席自由 ※未就学児入場不可

主催 株式会社ファインミューズ 協賛 野中貿易株式会社



ピアノ 黒岩航紀
Piano Koki KUROIWA

- G.フィットキン/ゲート
Graham FITKIN/Gate
- 佐藤聡明/ランサローテ
Somci SATOH/Lanzarote
- 狭間美帆 編/ジャズ・スタンダード集
Miho HAZAMA arr./Jazz Standards
- 1. Nature Boy/Eden AHBEZ
- 2. The Moon is a Harsh Mistress/Jimmy WEBB
- 3. The Days of Wine and Roses/Henry MANCINI
- 4. Shizuku/Miho HAZAMA
- 5. Moon and I/Michael LEGRAND
- A.デザンクロ/プレリュード、カダンスとフィナル
Alfred DESENCLOS/Prélude, Cadence et Finale
- W.オルブライト/アルト・サクソフォンとピアノの為のソナタ
William ALBRIGHT/Sonata for Alto Saxophone and Piano

※お伝えできない事情により、出演者・曲目が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

音楽の歴史はいつ頃まで遡ることができるのだろう。管楽器に限定してみても、現時点で確実に最古の管楽器と考えられているのは、なんと36000年前のものだそう。そこから考えてみると、果てしない程の文化や技術などのやり取りが交わされ、刺激し合い、多様な音楽、作品、楽器などが生まれ、発展してきたと言えます。時には争いや対立、弾圧、迫害などにより、排他的に潰れてしまったものもあったかもしれません。

しかし今は21世紀。これだけグローバルな時代になり、ある意味音楽はこれまで以上に発展し放題。

好き嫌いでふるい分けせず、すべての存在を受け入れ「嫌いだけど、こういうところは素敵だな、面白いかも」と発見できれば、より発展的な未来が見えてくると思います。

今回のプログラムは、はっきりいってジャンルとしてはごちゃ混ぜ。なんのまとまりもありません。しかしどれも多様な文化を受け入れ、新たな響きを生み出した結晶です。

フットキンの「ゲート」は、ミニマルミュージックのようでありながら、アイリッシュやロックのよう要素も。

佐藤聡明の「ランサローチ」は、そのまま尺八で演奏してもおかしくなさそうな純日本的な作品ですが、それをサクソフォンとピアノという西洋生まれの楽器で演奏する異文化交流。

グラミー賞ノミネートの経歴もあるジャズ作曲家、狭間美帆による「ジャズ・スタンダード集」は、スタンダードからの4曲と狭間のオリジナル曲1曲。アドリブのない、素朴で温かく優しいジャズの、まるでクラシックのようなアレンジ。

デザンクロの「プレリュード、カダンスとフィナル」はクラシカル・サクソフォンの伝統的定番曲。一見モダンに響く音の中には、ペンタトニックという世界中の伝統音楽によく用いられている5音音階と、コンビネーション・オブ・デミニッシュ・スケール(あるいはメシアンの「移調の限られた魔法」第2番)という現代的、あるいはジャズでもよく用いられる音階が頻りに現れ交錯していく。

オルブライトの「ソナタ」は、激動と混乱の20世紀を象徴するような作品。メロディの概念を打ち破り、かと思えばバロック音楽へのオマージュもあり、またフリージャズのような常軌を逸した世界を描きます。

クラシック音楽の歴史は約400~500年くらいと考えられますが、その中で多様な文化を受け入れ、変幻自在な変化を遂げ、昇華されてきました。

このコンサートで、クラシックの「ニューノーマル」を体現し、そしてこれらの音楽を通じて、分け隔てない、全ての音楽へのリスペクトを感じ取っていただけたら幸いです。 田村 真寛

田村真寛 Masahiro TAMURA

サクソフォン Saxophone

神奈川県出身。O型。東京藝術大学卒業。同大学在学中に安宅賞を受賞。第3回ジュニア・サクソフォン・コンクール第1位。第19回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門第1位、及び特別賞を受賞。NHK-FM「名曲リサイタル」出演。「クローバー・サクソフォン・クワルテット」のメンバーとして各地でリサイタル等の活動の他、CD「CLOVER」、「Precious」、「ゴルトベルク変奏曲」をリリース。(財)地域創造公共ホール音楽活性化事業支援アーティストとして、各地でのアウトリーチやコ

ンサート活動を行う。洗足学園音楽大学、尚美ミュージックカレッジ専門学校、神奈川県立弥栄高等学校 各非常勤講師。サクソフォンを大和田雅洋、須川展也、富岡和男の各氏に、室内楽を須川展也、中村均一、小林裕の各氏に、ジャズを浜崎航氏に師事。ソロ、室内楽、オーケストラ、吹奏楽、レコーディング等での活動の他、マルチリードプレイヤーとしての活動やジャズへのアプローチも行い、様々な角度から音楽、サクソフォンの可能性を追求している。

黒岩航紀 Koki KUROIWA

ピアノ Piano

東京藝術大学首席卒業。同大学大学院修士課程修了の後、リスト音楽院にて研鑽を積む。第11回東京音楽コンクール、第84回日本音楽コンクール、2019年KIPA国際ピアノコンクール(韓国)等での第1位、インムジカローマ、ヘイスティングス国際コンクール等、多くの入賞歴をもつ。青山音楽賞新人賞。宇都宮エスペール賞。2017年にロシア・サンクトペテルブルクより招聘されての演奏が高く評価される。2019年東京オペラシティリサイタルシリーズ「B→C」出演。NHK-FM「ベスト・オブ・クラシック」リ

サイタル・ノヴァ」リサイタル・パッショ」多数出演。これまでに東京フィル、東響、新日本フィル、日本フィル、東京シティ、ロイヤルフィル、ローマトレオーケストラ等と共演。国内外の多くの演奏家からの信頼も厚く、室内楽やアンサンブルピアニストとしても高い評価を得ている。1st CD「sailing day」に続く2019年2nd CD「展覧会の絵」は(レコード芸術特選盤)に選定される。(公社)日本演奏連盟会員。東京藝術大学ピアノ科、甲斐清和高校音楽科非常勤講師。https://www.kokikuroiwa.com

Access



フィリアホール 横浜市青葉区民文化センター

〒227-8555
神奈川県横浜市青葉区青葉台2-1-1
青葉台東急スクエア South-1 本館 5階
電車でお越しの方
東急田園都市線「青葉台駅」より
徒歩3分
駐車場のご案内
青葉台東急スクエア 駐車場を
ご利用ください。